

平成の大合併にゆれた3年間

● 時代の潮流

～合併に向けた取り組み～

交通手段や情報通信技術の目覚ましい発達による生活圏の広域化は、市町村の枠を超えて人や物の交流をもたらしました。そして少子高齢化や様々な住民のニーズに対応できる行政の整備、及びそれらを実現していくための財政基盤の強化等が求められる地方自治の時代を迎えています。

平成13年11月当時、飯塚市、山田市と嘉穂郡8町は、より効率的な地方行政体制の整備に向けて調査研究を行う「嘉飯山地区合併問題調査研究会」を設立しました。その中で「住民の理解を得ることが最重要であり、十分な議論を行うために嘉飯山2市8町で取り組んでいく」との基本合意がなされ、合併に向け動きだします。

そして平成14年8月に「嘉飯山2市8町合併任意協議会」が発足。これにより各市町においてアンケートや住民説明会、合併に関する学習会などが開催され、住民の意見集約が行われました。そして各市町の議会での議決を経て平成15年3月に「嘉飯山2市8町合併協議会(法定)」が発足し、合併に向けた様々な課題克服、制度調整などに入りました。

● 苦渋の選択

～合併協議会からの離脱～

平成15年3月から平成16年6月に至るまで嘉飯山2市8町合併協議会では、合併に向けた41項目にわたる調整項目について協議、調整を行ってきました。大部分は調整が済んだものの、合併の重要項目である「新市の名称」や「事務所の位置」などいくつかの項目で各市町の意見の相違が際立っていました。2市8町という全国的にも稀な構成団体の多い合併の中に対する戸惑いと危惧の念も広がっていました。

そして桂川町は、平成16年6月28日、嘉飯山2市8町合併協議会を離脱しました。

その後、嘉飯山2市8町合併協議会も解散し、現在の飯塚市(1市4町)と嘉麻市(1市3町)の合併が成立。桂川町は単独での町政運営を行っていくことになりました。

この間には、住民団体による議会のリコールや町長の辞職及び議会解散による町長・町議会議員選挙など、町政の混迷が続きました。

桂川町激動年表

平成13年11月	嘉飯山地区合併問題調査研究会設立
平成14年5月	桂川町合併問題調査研究会設立(行政)
平成14年6月	桂川町合併問題調査特別委員会設立(町議会)
平成14年8月1日	嘉飯山2市8町合併任意協議会発足
平成15年1月～2月	桂川町 住民アンケート 実施 (18歳以上5,000人を対象)
平成15年3月17日	桂川町議会臨時会で町執行部提出の「嘉飯山2市8町合併協議会(法定)の設置」議案を賛成多数で可決
平成15年3月27日	嘉飯山2市8町合併協議会(法定)発足
平成15年6月～7月	嘉飯山 住民アンケート実施 (18歳以上3万人を対象)
平成15年4月 ～平成16年6月	合併協議会開催21回 桂川町の合併協議会特別委員会開催24回
平成16年6月28日	嘉飯山2市8町合併協議会を離脱
平成16年8月19日～	住民団体による桂川町議会解散の署名活動開始
平成16年8月24日	嘉飯山2市8町合併協議会の離脱に関する住民説明会開催(住民センター)
平成16年9月30日	嘉飯山2市8町合併協議会廃止
平成16年10月20日	住民団体により提出された桂川町議会の解散を求める署名5,078人分とともに、町議会解散の本請求がなされる
平成16年12月10日	桂川町長が辞職
平成16年12月12日	桂川町議会解散の賛否を問う住民投票実施、解散賛成票が過半数を上まわり町議会は即日解散
平成17年1月16日	桂川町長選挙及び桂川町議会議員一般選挙実施
平成18年3月26日	飯塚市・穎田町・庄内町・筑穂町・穂波町が合併して新市制による飯塚市誕生
平成18年3月27日	山田市・稲築町・碓井町・嘉穂町が合併して嘉麻市誕生

